学校番号	2003

平成３１年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校現代社会新訂版」　（実教出版）						
副教材等	「フォーラム現代社会２０１９」　（東京法令出版）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・高校生が複雑な現代社会を理解する方法のひとつとして、高校の公民科の「現代社会」という科目を活用する。
・教材の精選と、幅広い関心を維持するために、ひとつのジャンル（教科書の「章」）で、総花的に教材を取り上げることをせず、代表的なテーマにしぼる。

２ 学習の到達目標

・現代社会を理解するうえで必要な最小限度の知識を確保する。
・様々な資料から、問題点に気づき、他人の意見を聞き、自分で考察し、自身の意見をもてるようにする。積極的な発表ができるようにもしたい。
・日本の諸問題を取り扱う中で、世界との関係に着目する視点を養い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の日本社会の課題を知ろうとし、自分が何ができるかを探ろうとする。身近なことと、グローバルなことと、ともに関心の対象とする。	現代社会の諸課題を歴史的、地理的、政治的、経済的、哲学的に考察し、自分なりの判断をし、意見を持ち、主張できる。	教科書・副読本のみならず、マスコミやインターネットからも情報を収集し、選択し、組み立てたり、組み替えたり、独自の観点からまとめたりできる。	世論国論が二分されるような問題についても、まずは正確な知識を獲得する。複数の視点から解釈できるように、知識の深化をはかる。
評価方法	発問対応 小テスト 提出課題 授業態度	定期考査 発問対応 小テスト 提出課題 授業態度	発問対応 小テスト 授業態度	定期考査 発問対応 小テスト 提出課題 授業態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1編現代社会の諸課題・	第1編 第1章 地球環境を考える	○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:環境問題を国際社会との連関で捉えている。 b:東日本大震災と福島原発事故に取材して、政府の政策・諸個人生活を考察できる。 c:ネット上の統計を理解できる。 d:温暖化、放射能などの基礎知識がある。	定期考査 発問対応 小テスト 提出課題 授業態度
		第2章 科学技術の発達と生命	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:生命倫理を自分の問題とする。 b:生命科学の発達を哲学的に考察する。 c:生命関連のニュースを解読できる。 d:臓器移植・終末医療・デジタルディバイドなどを理解している。	
	第2編現代社会と人間としてのあり方生き方	第2編 第1章 青年期と自己形成	○ ○	○ ○	○ ○	 ○ ○	a:青年期の自分と他人を比較し、客観的に見ることができる。 b:自己のこれまでを内省し、自己のこれからを展望できる。 c:社会参加について、マスコミでの実践例に触れる。 d:自己形成についていくつかの学説を知る。	
		第2章 他者とともに生きる倫理	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:先覚の考えに耳を傾ける。 b:世界観と人生観の関連を考察する。 c:後述の哲学・宗教について、著名な一節を読み、理解する。 d:ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想・日本の思想について基礎知識を獲得する。またルネサンス・宗教改革・観念論哲学・近代思想・現代哲学についても概観する。	
		第3章 現代の国家と民主政治	○ ○	 ○ ○	 ○	 ○ ○	a:人権問題を身近な問題と捉えている。 b:自己の振り返りを通して人権問題を表現できる。 c:人権問題を扱ったいくつかの裁判記録を読み、理解する。 d:人権意識の発達、民主政治の発展について基礎的知識を獲得する。	

2学期	第2編現代社会と人間としてのあり方生き方	第4章 日本国憲法と国民生活	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	a:わが国の憲法という視点を持っている。 b:平和主義について、自分でものを考えている。 c:最近のいくつかの選挙結果、最近のいくつかの地方自治をめぐる問題について認識し、理解し、問題点を見つけ出せる。 d:憲法成立過程・日本の統治機構・政党政治について、中学校までの知識を整理し、さらに高校生としての知識を獲得する。	定期考査 発問対応 小テスト 提出課題 授業態度
		第5章 国際政治の動向	○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	a:国際法の淵源をたどる。 b:最近の事件から、国際連合・安全保障について考察する。 c:軍備に関する一次資料を解読し、国際政治との関連を理解する。 d:戦後史（冷戦期、冷戦後）の基礎知識を獲得する。	
		第6章 現代の経済社会と政府の役割	○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:市場原理を理解する。 b:需要者・供給者の両方の立場に立てる。 c:国民経済指標を読める。 d:企業・景気・金融・財政などの基本用語を正確に認知する。	
		第7章 経済活動のあり方と国民福祉	○ ○	○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:中小企業と農業に関心を持つ。 b:公害について自分の意見を持つ。 c:労働問題や社会保障のデータを読む。 d:戦後の日本経済の歴史を知る	
3学期		第8章 国際政治の動向	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	a:為替レートに関心を持つ。 b:金融危機について深読みした意見に接し、考察する。 c:国際経済の諸指標を見る。 d:地域経済統合の基礎知識を獲得する。	
	第3編共に生きる社会をめざして	持続可能な社会のために 排除しない社会へ	○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ 	 ○ ○	a:１年間の学習を振り返り、関心のあるテーマを選ぶ。。 b:自分のテーマについて、意見をまとめ提出する。何人かは発表する。 c:自分で文字資料・数値データを扱う。 d:他者の発表から、新しい視点、新しい知見を得る。	定期考査 発問対応 提出課題 （意見発表） 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。